



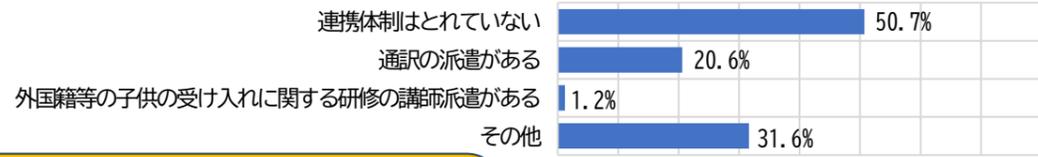
# 多文化の環境で育ち合う幼児教育の在り方 ～受け止め合う心を育むための関わりを考える～

国際化が進む中で、幼児教育施設においても、外国籍等の子供<sup>※1</sup>の在籍人数が増加しています。言語、文化的背景に配慮しながら、幼児期にふさわしい生活を確保し、育ちを支えていくことが必要です。しかし、当該幼児やその保護者、さらには支援をする園に困り感や課題があることも実状です。幼児教育では、遊びを通した総合的な指導を行います。当然、当該幼児や、その子を取り巻く全ての子供たちが育ち合えるよう、教育・保育を進めていく必要があります。

幼児や保護者に、どのような環境を用意し、援助を工夫していくとよいのか、具体的に考える参考となるようリーフレットにまとめました。

※1 国籍に関わらず、父・母のいずれか、又は、両方が外国にルーツをもっている子供

## ＜幼児教育施設と関係機関との連携＞

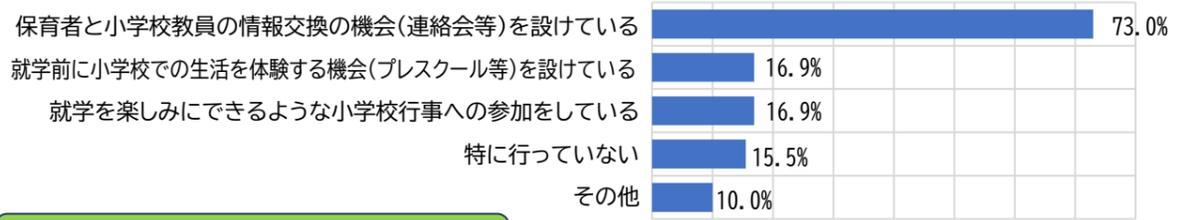


### ＜関係機関との連携＞に関わるエピソード

通訳の派遣、文書の翻訳、翻訳機の貸与等について、当初「どの機関（部署）に聞いたらよいか分からない」と尻込みしていたが、思い切って市役所へ聞いてみたら、担当課やその他の関係団体を紹介してもらえた。



## ＜小学校への接続＞



### ＜小学校への接続＞に関わる取組例

- ◎ 就学前に、小学校の先生に園の様子を見てもらったり、伝えたりして情報共有を行っている。加えて、就学に不安のある保護者には教育相談へ行くことを積極的に進めている。
- ◎ 『幼児向け日本語教室』という取組を活用している。この取組は「楽しい経験を通して日本語を獲得する中で“言葉が伝わる嬉しさや伝える楽しさを感じ、伝えたい気持ちが生まれ、更なる日本語力の向上につながる”」という考えで行われている。就学後の学びにつながる具体的な内容としては、“大きい／小さい” “長い／短い” などの算数で使用される形容詞を、積み木などを使い、遊びを通して学んでいる。

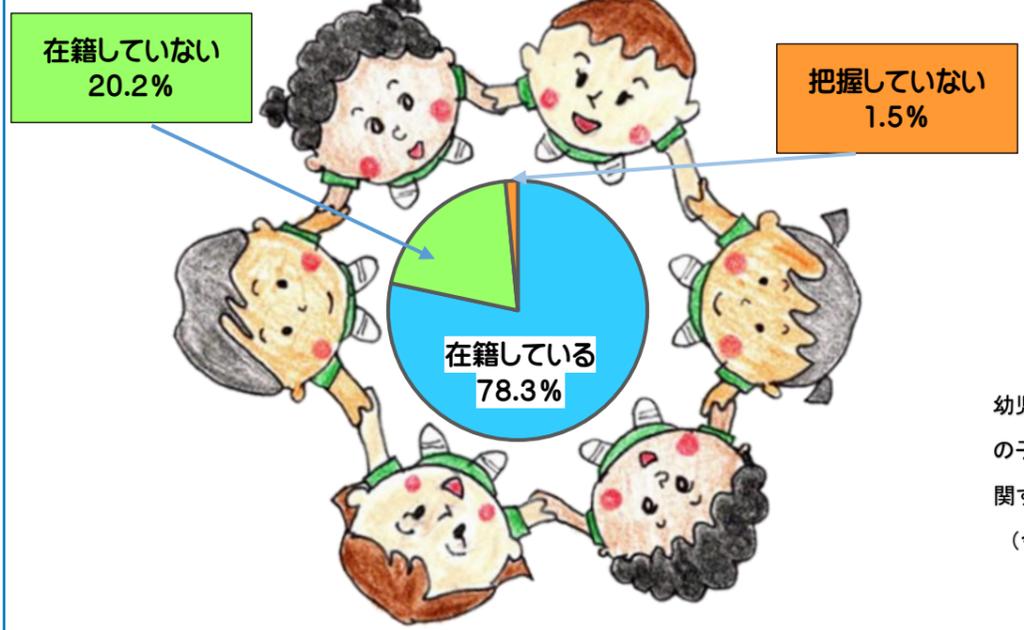


今回の調査によって、愛知県内の多くの幼児教育施設に外国籍等の子供が在籍していることが明らかになりました。園により在籍人数や母語は様々ですが、保育者は自園の状況や子供の姿に合わせて環境や援助を工夫して、教育・保育を行っています。園生活においては、外国籍等の子供と周囲の子供は分け隔てなく触れ合っています。その中で保育者は、一人一人の子供の学びをより豊かにするためどのような工夫をするとよいか具体的に考えていかななくてはなりません。

その基本姿勢として、外国籍等の子供のことを理解しようと思い、その子の母語や母国の文化を大切にすることを必要です。さらに、共に生活する周囲の子供たちにとっても、当該幼児がいる環境により、多様な文化や考え方に触れ、多様性の理解につながる心を育む機会となる「育み合う」実践を重ねていきましょう。

令和6年7月現在、愛知県内の約8割の園において、外国籍等の子供が在籍しており（下グラフ参照）子供の在籍人数における割合は4.5%である（下表参照）。

## 外国籍の子供の在籍について



幼児教育施設における外国籍等の子供の在籍及び教育・保育に関するアンケート調査まとめ（令和6年7月～8月実施調査）

外国籍等の子供の在籍人数(年齢別)と在籍する割合

	園児数	外国籍等の子供の在籍人数	外国籍等の子供が在籍する割合
3歳未満児	23,258	1,140	4.9%
3歳児	26,161	1,075	4.1%
4歳児	27,668	1,224	4.4%
5歳児	26,323	1,213	4.6%
合計	103,410	4,652	4.5%

\*「幼児教育施設における外国籍等の子供の在籍及び教育・保育に関するアンケート調査」に回答のあった幼児教育施設（987園）のまとめ

このような状況の中、子供たちが育ち合えるよう各幼児教育施設では、どのような環境や援助の工夫をするのでしょうか。

**\*園で見られる代表的なエピソードを5つ取り上げました\***

**こうしたよ！**

運動会で飾る万国旗を制作する際、Aさんの母国をはじめ、様々な国旗を見たり描いたりする中で、それが世界のどこにあるのか、クラスみんなで世界地図に貼っていくことになり、子供たちはたくさんの国があることを知った。そのうちに、「どういうところかな、行ってみたい」「おいしい食べ物あるのかな」と声があがり、食文化も話題となった。

そういった話題のなかで、Aさんの食べられない食材についても触れたことが、文化の違いを伝えていくきっかけとなった。

子供たちが、自分たちの知らない文化があることを知る機会になるね。他の文化への興味関心を広げることは大切だね。

**ポイント**



**エピソード①  
多文化の気付き**

Aさんは母国の文化の影響で、食べられない食材があります。周りの子供たちが気付いて「なんで食べないの?」「Aさんだけ食べなくていいの?」等と言います。どうやって伝えていくといいのかな?



**エピソード⑤  
保護者への伝達**

お便りに母語の説明を入れて配付したり、個別に声をかけて連絡事項を伝えたりすると、「はい」と返事をもらえます。しかし、実際には伝わっていないことが多いです。片言の日本語、文字は分かって、その意味まで理解することができないのかな?



実際に物を見せて説明したり、繰り返し声をかけて丁寧に関わったりすると、園のことを理解し、関心をもつようになるんだね。大きな行事のこと、アレルギー対応等、特に大事なことは通訳を依頼して伝えていけるといいね。

**ポイント**

保育者が保護者の困り感に寄り添おうとすることで、保護者の困り感を理解できるね。園と家庭が分かり合って関わることができると、本人の困り感も解消されるね。文化の違いがあっても、お互いに歩み寄れるところを探していく必要があるね。

**ポイント**

**園内での不安や  
困り感・課題**



**エピソード④  
生活習慣の確認**

Dさんは排泄の自立、靴の履き替え等がなかなか身に付きません。園と家庭とで生活習慣が違うのかと思い、保護者と園や家庭での様子を話し合い、今後について相談したいと思っているけれど上手く伝えられません。家庭との連携を図っていくためには、どのように伝えていけばいいの?



**こうしたよ！**

保護者に園での様子を見てもらったり、写真や動画を見せたりして園での生活習慣、ルール等を伝えた。通訳を介して家庭での様子を聞き、文化の違いから生まれる保護者の困り感も確認した。すると、家庭で排泄が上手くいった時は保護者が知らせてくれるようになった。また、Dさんが園で靴の履き替えを意識してやるようになった。



**ポイント**

**こうしたよ！**

Bさんの母国のジャンケンや手遊びを保護者から教えてもらい、遊びに取り入れていくと、Bさんも楽しそうに友達とやっていた。それをきっかけに、他の遊びでも、友達に声をかけ、関わりをもちながら遊ぶ姿がよく見られるようになった。



**エピソード②  
友達とのつながり**

Bさんは言葉をあまり発せず、周りの友達と関わろうとしますが、興味のある遊びを見付けると楽しそうにしていますが、友達には話しかけていきません。言葉が通じないため、関わることをためらっているのかな?



Bさんにとって“楽しい遊び”がきっかけとなり、友達と関わり合えたね。その経験から、友達と一緒に遊ぶ楽しさや、つながりをもつ心地よさを感じるようになったんだね。

**ポイント**

**エピソード③  
言葉の壁**

Cさんが遊びの中で描いた絵に対し、保育者が「かわいいね」と褒めたり、木の实やカップ等を組み合わせて自分なりに作ったケーキに「素敵にできたね」と声をかけたりしました。しかし、保育者の方を見るだけで、あまり反応を示しません。認めている思いが伝わるにはどうしたらいいの?



**こうしたよ！**

褒める言葉を、簡単な母語で伝えたり、絵表示に母語も添えて見せたりしていくと、Cさんがにこっと笑うようになった。次第に、声をかけるとうれしそうにハイタッチをしたり、保育者に抱きついたりし、スキンシップをとるようになっていった。

母語で、うれしくなる言葉を伝えていくことで、Cさんと気持ちが通じ合い、安心や信頼に繋がったんだね。

**ポイント**